

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0197400021		
法人名	有限会社 ユートピア・アットホーム旭川		
事業所名	グループホーム金さん銀さん(金さんユニット)		
所在地	北海道深川市音江町1丁目3番13号		
自己評価作成日	令和 元 年 12 月 5 日	評価結果市町村受理日	令和 2 年 4 月 6 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0197400021-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0197400021-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号		
訪問調査日	令和 2 年 2 月 21 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は郊外の閑静な住宅街の中に立地している。付近には公共施設が少なく不便なように見えるが、町内の商店を利用したり、また医療機関への通院や緊急時の応援態勢は速やかにできる。事業所理念に基づいて、個々の利用者の方々から暮らしてきた地域とのつながりや役割を持つことの意義を大切にしている。本人や家族の意向を大切に、重症化してもホームで生活を続けられるように支援している。他施設で入居が困難な方でも関係機関と協力しながら入居に繋げるようにしている。生活保護受給者の方も入居の対象としており、入居条件を広く設けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は高速道深川IC、国道12号線沿いの道の駅からも近い交通の便利な閑静な住宅地にある。鉄骨3階建ての複合施設の2階を仕切る形で2ユニットのグループホームになっている。1階には介護付き有料老人ホームがあり、避難訓練やイベントが合同で行われ利用者同士馴染みの関係を楽しんでいる。秋の神社祭りではお神輿や獅子舞が玄関前まで来たり、近くにある保育園児の慰問や小学生の職場見学など、地域や子どもたちとの繋がりが途絶えないようにしている。会議などで使用している3階を活用し、市との「災害発生時における福祉避難所設置運営に関する協定」に基づき、災害時には地域に住む介護度の高い高齢者や障がい者の避難場所として受け入れるなど、地域との協力体制を構築している。職員は利用者の通院時の同行などの医療支援に力を注ぎつつ、家族への連絡や職員間の情報共有に努め、法人のケア理念と地域に密着した事業所理念に基づき、利用者が安心して過ごせる場を作りあげている。利用者は介護度が進んでも明るく居心地の良い居間で、職員と手指の運動やラジオ体操、歩行訓練を行うなど穏やかに思い思いの時間を過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケアの場面で行き詰ったりした時など理念に立ち返り、利用者にとって今、何がベストなケアなのかを職員で共有し実践に繋げている。	昨年作り上げた事業所理念を、玄関や各ユニットに掲示し職員で共有している。職員は理念に基づいて利用者の為に何が出来るかを考え、実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内にある保育園の慰問、小学校の職場見学、施設全体で地域住民災害時避難支援の協力、町内の商店との協力(買い物代行)を行っている。	町内会に加入し、災害時には町内の介護度の高い人の一時避難場所になるなど地域住民災害時避難支援を行っており、地域との協力関係を築いている。秋の神社祭りではお神輿や獅子舞が玄関前まで来たり、保育園児の慰問や小学生の職場見学など地域との繋がりを大事にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市の事業の一環である認知症ケア研究会への参加とそれに伴う活動として、徘徊模擬訓練や認知症カフェを定期的実施している。また、キャラバンメイトの会の役員としても活動し活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な開催は行っているが、家族の参加がなかなか見込めずいつも決まったメンバーになっている。出席者からの意見はサービス向上に活かしている。	市の高齢者支援課、家族、利用者などが参加し、2か月に1回開催している。活動報告、事故報告、利用者の状況や取り組みについて報告するとともに、意見や助言をサービス向上に活かしている。	開催日を調整し参加者を増やす努力をしているが、家族や町内会からの参加が少なく苦慮している。特に地域との繋がりを強化するためにも、新しく変わった町内会長や長寿クラブの会長に気長に声掛けを続け、参加を促すことを期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者やケアの実情など推進会議を活用し、アドバイスをもらっている。	市の担当者とは日常的に連絡を取り合い、指導、助言、情報交換を行っている。運営推進会議以外に、地域ケア会議や認知症ケア研究会にも参加し、意見交換をしながら協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束による弊害は全スタッフが理解している。指針を作りその上で家族の理解を得ながら、最低限の身体拘束に留めている。また、定期的に拘束の有無を見直している。玄関の施錠は状況に応じて対応している。	身体拘束防止についての指針の見直しを行い、身体拘束廃止委員会を3か月に1回定期的に開催している。職員は身体拘束に関する外部研修会に参加し、拘束しないケアへの理解を深めている。玄関の施錠は夜間の防犯目的で行われ、日中はチャイムで対応している。深川市のSOSネットワークにも登録し、地域との協力関係を築きながら身体拘束をしないケアを心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修を実施し、虐待防止について学んでいる。		

グループホーム金さん銀さん(金さんユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度自体は把握しており、家族が手続きをした方で後見制度を利用している方がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には施設内の見学とサービスの説明を十分に行い、理解納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やサービスの変更をする際には、家族に説明して意見を頂戴し活かしている。家族と事業所が風通しが良い関係であるよう努めている。	利用者からは、日々の会話や動作、表情から意見や要望を読み取る努力をしている。家族とは面会時や運営推進会議への参加時、電話やメールでの連絡時に意見や要望を聞いて、運営に反映させている。利用者や家族からの意見要望は、その都度連絡ノートへ記載し、朝夕の引継ぎ時に職員間で共有している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日常的に職員の声に耳を傾けていて、それを事業所の運営に反映している。	全体会議や個人面談は行っていないが、管理者は話しやすい環境作りを心掛けており、日々の会話や引継ぎ時に職員からの意見を聞き、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	シフト内で希望休を取ったり、有給を積極的に取得している。業務に必要な物品の購入や研修費の法人負担など一部反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	シフトの調整をして資格取得に取り組んでいる。また、市内で開催している研修に出席し、獲得した知識は他の職員に伝達している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	主に管理者が他事業所と交流をしており、互いの情報交換などの取り組みをしている。		

グループホーム金さん銀さん(金さんユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する前に生活歴や病歴等の情報を確認し、また、家族などからも実態を聞き取り、スムーズな支援が行えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前情報として聞き取りを行い、家族と円滑な情報共有や相談ができるよう、電話だけではなくメールも活用しながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の事前情報により初期対応を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする者同士の関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常的に家族とは情報共有する関係を築いており、それを継続出来る様に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後でも親戚・知人・友人が訪ねてきてもらえるように、家族にはその旨を伝えている。	家族、知人の来訪時にはくつろげる場を提供するなど配慮している。月1回の理美容院の来訪や、病院帰りの買い物支援、家族との外出時の支援など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や症状の進行に合わせて、食卓席を随時変更したりして柔軟に対応している。		

グループホーム金さん銀さん(金さんユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後は関わりがほぼなくなるが、身寄りのない利用者に対しては入院中に退去した場合、法人や行政と相談して一時的に金銭管理を行うなど柔軟に対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り本人の意向の把握に努めているが、そうでは無い場合は家族から聞き取ったり、本人本位に検討している。	入所時に聞き取りした利用者や家族の思いや希望に加え、日々の生活での会話や動作、表情などから思いの汲み取りに努めている。利用者や家族から得た情報は、気付きノートやミーティングで共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	おおまかなことは入居前に把握している。また、入居後も会話から聞きだすなど対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化する利用者の現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で日常的に情報共有を行い、必要に応じて関係者から聞き取りを行い、現状に即した介護計画作成に努めている。	利用者ごとに担当職員を配置しモニタリングを行い、利用者、家族の意見や意向を聞きながら、短期3か月、長期1年毎に介護計画を作成し家族への説明と同意印を得ている。利用者の状況に変化があれば、その都度現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケア記録とともに連絡帳も活用しながら情報共有や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1階で受け入れているボランティアが来た際は、見学に行くなどしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の商店に嗜好品などを注文して届けてくれている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には入居前からかかっている病院に通院し、症状によって必要な専門外来にかかっている。	利用者、家族の意向に沿ったかかりつけ医を受診できるよう支援して職員が同行し、結果は家族に報告している。情報共有するための診察記録も作成している。訪問診療は歯科医のみだが、必要に応じて専門外来への受診支援も行っている。	

グループホーム金さん銀さん(金さんユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置はありません。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ホームで実践している対応を伝え、治療がしっかりうけられるように引継ぎをしている。また、病院が対応できず入院が出来ない場合もあり、連携に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に終末期ケアは行っていない旨を伝えて理解を得ている。また、重度化への対応は一定の基準をもうけているが、家族の希望も尊重しながら柔軟に対応している。	入所前に事業所で可能な範囲を説明し、利用者や家族の同意を得ている。重度化した場合は家族の意向を聞きながら事業所で出来る支援を行うが、医療行為の発生や食事の摂取が困難になった場合は、家族や主治医と相談し、入院など希望に添うよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	おおむね急変時の対応は身につけている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。また、市からの協力要請で重度の住民を施設で登録して、非常時に避難協力する体制を築いている。	年1回の消防署の指導と避難訓練を、1階の介護付き有料老人ホームと合同で年2回(夜間想定1回)実施している。市からの要請を受け、地域の介護度の高い高齢者や障がい者の一時避難場所として受け入れる体制も出来ており、地域との協力体制を築いている。災害緊急連絡網も更新し掲示している。	停電時に使用する懐中電灯や電池などの備蓄はあるが、水の備蓄が不足している。災害時に備え最低3日分の水を備蓄することを期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した声掛けに努めている。	名字呼びを心掛け、一人ひとりの尊厳を損なわないよう努めている。プライバシーにも配慮したトイレへの声掛けや入浴時の同性介助にも対応している。個人情報の管理も適切に行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一部の利用者は日常生活の中で自己決定してもらう場面はあり、そうではない方は本人本位にあるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースで生活を送ってもらえるよう努めている。		

グループホーム金さん銀さん(金さんユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己選択できる人はおまかせし、そうではない場合は職員が支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは決められているが、食べられない食材には代替の料理を出すなどして柔軟に対応している。また、行事の時には出前を取り普段と違う料理を提供し、楽しんでもらえるように努めている。	法人本部が献立を決め、使用食材も本部が委託した業者が配達しているが、利用者の嗜好に合わせた食材の変更や、誕生日や季節の行事には特別な献立を提供するなど利用者が食事を楽しめる工夫をしている。職員は利用者に合わせて形状や味付けで調理を行い、利用者は職員と共に出来る力を活かし手伝いを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一部の人ではあるが入居前からの嗜好品の摂取を続けてもらっている。栄養や水分も十分に確保できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力に応じて、個々に合わせた口腔ケアに努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄することを基本としている。身体状況によっては、オムツの使用や尿取りパットの使用をしている。	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握しながら表情や行動に目を配り、さりげなく声かけてトイレ誘導を行い、トイレでの排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日を通してある程度の水分摂取を促し、最小限の薬も使用しながら便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	最低週2回は実施しており、失禁などの状況により柔軟に対応している。ほぼ毎日入浴したい希望にも対応している。	週2回の入浴を基本とし、月曜から土曜日まで毎日入浴を楽しむこともできる。入浴剤を使用し入浴を楽しめる工夫をしながら、同性介助や複数介助など利用者に合わせた支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠状況により短時間の休息を促したり、夜間に睡眠がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬や飲ませ忘れがないよう数回の確認を経て、服用に至るようにしている。		

グループホーム金さん銀さん(金さんユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一部ではあるが、個々で嗜好品を楽しんでもらったり、役割がある。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一部ではあるが、個別の対応を行っている。	利用者の介護度が上がり以前のような外出支援は減っているが、通院時に買い物や外食に同行したり、花が咲く時期には菜の花やカタクリの花の見学に行くなどの外出支援を行っている。利用者はベンチでの日光浴や近郊にある商業施設での飲食、家族との外出も楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者だが、金銭の所持と使用をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からかけることはないが、家族や知人から連絡があれば都度本人へ繋いでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な刺激がないように配慮している。	居間と食堂が一体化した広い空間には大きな窓があり、窓から見える広大な景色から季節の移り変わりを感じることが出来る。明るい室内は温度、湿度、音が配慮されゆったりと過ごせるようにテーブルや椅子、ソファが配置され、対面式の台所から居間で寛ぐ利用者の様子を確認できる。食事時はテレビを消し、懐メロ音楽を流すなど工夫しながら居心地よく過ごせる空間づくりをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士が自然と一緒にいる為、現在は特別な工夫はしていない。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に思い入れのある物などを極力持ちこむように説明している。	蓄熱式暖房機、カーテン、洗面台が備え付けられ、利用者は使い慣れた家具や電化製品、仏壇など好みのものを持ち込み、居心地よく過ごせる工夫をしている。管理者は入所前に利用者の自宅に伺い思い入れのある物を確認し、居心地の良い居室作りに活かしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じて声掛けや誘導している。		